

審 査 講 評

プロポーザル選定委員会
委員長 河野博喜

1 審査の経過

吉野川市アリーナ併設多目的交流センター建設工事設計業務の設計者の特定に関し、3回の審査委員会を開催し、審議を行った。

(1) 第1回選定委員会（平成29年 3月10日）

第1回選定委員会では、事務局より事業計画及びプロポーザルの手続きについての説明を受け、提案書提出要請書及び提案書評価基準の審議を行い、プロポーザルの評価にあたっては、提案書の内容とヒアリングの結果により総合的に判断するものとした。

また、提案書の提出者を7社選定し、提案書提出要請書の技術提案について、次の課題を選定した。

- ① アリーナの5つの機能について
- ② 地域の防災拠点としての施設について
- ③ 環境に配慮した施設について

(2) 第2回選定委員会（平成29年 4月14日）

第2回選定委員会では、提案書の提出があった4社に対し、個別ヒアリングを実施した。ヒアリングは、提出者毎に説明20分と質疑応答10分の計30分間で実施した。各課題や業務実施方針に対して、各委員において総合的に評価を行った。

(3) 第3回選定委員会（平成29年 4月21日）

第3回選定委員会では、各委員の評価を集計した総合点を基に最終審議を行い、得点最上位の者を当該業務について最も適した設計者（受託予定者）として特定し、次順位の者を次順位者とした。

- ① 受託予定者 : 株式会社 梓設計 関西支社
- ② 次順位者 : 株式会社 東畑建築事務所 大阪事務所

2 全体講評

本業務の事業計画では、旧麻植協同病院の吉野川医療センターへの移転により、鴨島駅周辺地区の中心部に大規模な空閑地が生じたことから、まちなかの賑わいの創出、地域の安心・安全の確保等、市街地活性化の新たな拠点となることを目指したものである。

今回のプロポーザルでは、健康・スポーツ機能、文化・芸術交流の充実強化とコミュニ

ティ形成の促進や、まちなかの賑わいの創出、地域の創意工夫を反映した総合的なまちづくりを進めるための拠点となる施設であることを踏まえ、都市再生整備計画の目的や内容を認識し、今後将来に向けて、課題解決の具体化に向けた提案を求めるものであった。

審査においては、担当技術者の業務実績などによる担当チームの能力、本業務の実施方針の妥当性や各課題に対する提案の的確性や独創性など、ヒアリングにより提案者の取組意欲や本業務の理解度など、総合的な評価を行った。

いずれの提案者も、担当チームの編成には、本業務と同規模の設計業務の実績がある担当技術者から成り、資格・経験においても優秀な人材を配置するものとなっていた。また、社を上げてのバックアップ体制や品質確保に向けた方策を業務実施方針に取り入れ、本業務に参加しようとする意気込みを十分感じ取れる内容となっていた。

各提案の内容は、アリーナと多目的交流センターとの連携を図り、一体感を持たせた施設になっており、鴨島駅周辺地区の拠点として、地区の課題を考慮した機能的、経済的な建物とするなど、都市再生整備計画を踏まえ、本市の方針を十分理解した提案が示されており、提案書のレベルは総じて非常に高いものであった。

以上、各者とも非常に優れた提案がなされ優劣をつけがたいが、総合的に評価した結果、最高評価点である提案者Cを受託予定者とし、評価点数第2位の提案者Bを次順位者とする。

3 個別講評

(受託予定者)

【提案者C】

実施方針において、駅前中心市街地の状況を理解し、より明快なコンセプトにより、地域の拠点として、吉野川市みんなの活動の舞台をつくるとした施設計画は共感が持てた。特に賑わいの拠点となる”ふたつのニワ”はユニークで独創性のある提案で、開放感があり「市民に開かれたまちのシンボルとなる」との印象を持った。また、業務体制やスケジュール管理、コスト管理など実務面も評価できる。

課題では、交流拠点としてのフレキシブルな施設利用の提案や、防災拠点としての利用においても、各フェーズにおいて利用計画も考えられたきめ細かい提案に担当技術者の総合力が垣間見られた。また、環境への配慮では、自然エネルギーの活用など環境負荷低減に様々な提案があった。

同種業務においても多くの実績を持ち各課題に対する提案も適切かつ柔軟性があり、市民、行政、設計者が一体となった業務フローの提案など協調性にも優れている。これらの結果、総合的な水準の高さが評価され、受託予定者となった。

(次順位者)

【提案者B】

実施方針において、駅前中心市街地の状況を理解し、「まち」「ひと」のつながりを重視した鴨島拠点を具現化するとの提案は、バランスの良い施設計画を実現できる設計事務所であることがうかがえた。

課題では、特に交流センターとアリーナを交流ロビー「かもじまの杜」で一体的に運用

し、世代間交流を促す地域コミュニティ拠点としての機能を有する計画がなされている点は評価できる。また、環境への配慮について、地域の気候を分析し、周辺環境への配慮や、ライフサイクルコストの低減のため機能的・経済的な施設づくりに様々な提案がなされていた。

同種業務においても多くの実績を持ち各課題に対する提案も適切かつ柔軟性があり、協調性にも優れているが、事業費縮減などのコストコントロールについての説明が不十分な印象が残った。

【提案者A】

実施方針において、駅前中心市街地の状況を理解し、掲げたコンセプトをもとに、明確な提案がなされ、新しい吉野川市の顔となる施設計画は評価できる。

課題では、中央に配置されたスポーツロビーにより、アリーナと多目的交流センターを一体化し、施設全体の管理・運用面を容易にする配慮がなされていた。また、地場産木材の積極的な利用など地域に根差した提案や、建物の形状に変化を加えることにより、周辺住宅地への圧迫感と日影の影響に配慮された計画であった。

提案及びヒアリングにおいては、受託予定者並びに次順位者と大差なく、組織力・技術力・対話力・企画力を生かしたバランスの良い施設計画を実現できる設計事務所であるが、同種・類似業務においての技術者の実績が他の提案者に比べ少ない点が今回の評価に影響したと考えられる。

【提案者D】

実施方針において、他の提案者同様、設計チームの技術力や会社の支援体制は評価できる。

課題では、アリーナと多目的交流センターへの明快な動線計画で管理面を容易にする配慮がなされ、環境への配慮では、ライフサイクルコストの低減や、周辺住宅地への視線や騒音対策の提案がなされていた。

担当チームの能力での評価は高かったが、提案においては、他の提案者よりの確信や独創性に欠けた印象であった。